

既設橋梁 床版下面および地覆部 表面保護（塩害・中性化対策）

供用開始から約35年経過した既設橋梁の点検・調査の結果、一部で鉄筋の腐食が確認されたため、断面修復を実施することとなり、併せて、表面保護工法による予防保全対策が検討された。

海岸付近（港湾内の河口部）に位置する環境であるため、①飛来塩分の浸透抑制、②中性化の進行による内部に浸透した塩化物イオンの移動・濃縮を抑制、③耐久性低下の要因となる目視では発見し難い微細なひび割れなどの空隙からの水や劣化因子の侵入抑制が要求された。

また、④施工後の外観変化がなく、躯体を直接目視点検可能であること、⑤下地の乾燥が困難なため、湿っていても施工可能であること、⑥経年後に補修・補強対策が必要となった場合に対策工法が限定されないことも求められた。

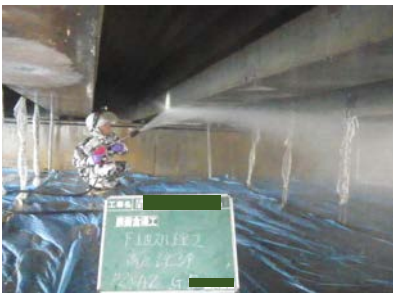
長寿命化（延命化）対策として上記①～⑥の項目について検討され、CS-21が選定された。
（施工面積：約3,500㎡・床版下面および地覆部・CSⅡ工法）



全 景



橋梁位置（赤丸部）



素地調整（高圧洗浄）



CS-21 散布



湿潤散水



CS-21 散布



湿潤散水



施工完了



塗布確認シート（施工後）

拡大



塗布確認シート（施工後）

※CS-21 塗布確認シートは、表面が中性化したコンクリートの場合、未施工箇所では無色のまま変化はないが、CS-21 を塗布した施工箇所では赤紫色を示すため、任意の箇所でもCS-21 塗布の有無を容易に確認することが可能なツール。